

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年2月24日～2018年3月2日の推移】

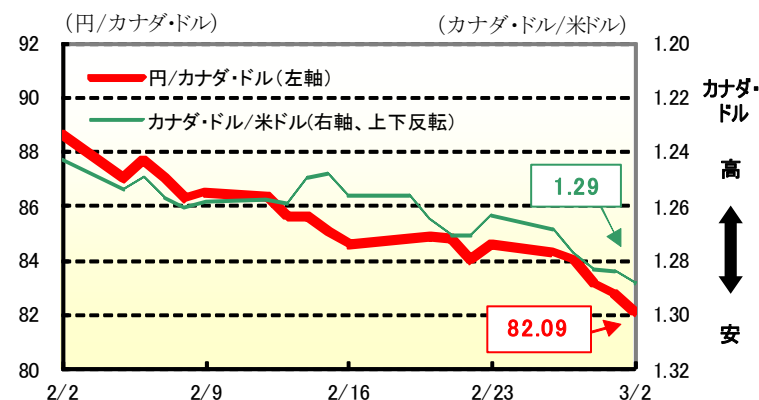
### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は下落し、カナダ5年国債利回りは低下しました。

先週は、株価が下落するなど市場のリスク回避的な姿勢が強まったことで、カナダの金利低下や円高が進みました。また、米国のトランプ大統領が鉄鋼やアルミ製品の輸入に対して関税を導入すると発表したため、カナダ経済への悪影響が懸念され金利やカナダ・ドルの低下圧力が高まりました。

なお、カナダではGDP(国内総生産)成長率が発表され、2017年10-12月期は年率+1.7%と市場予想を下回る結果となりましたが、年ベースでみると2017年は+3.0%と6年ぶりの水準となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年2月2日～2018年3月2日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

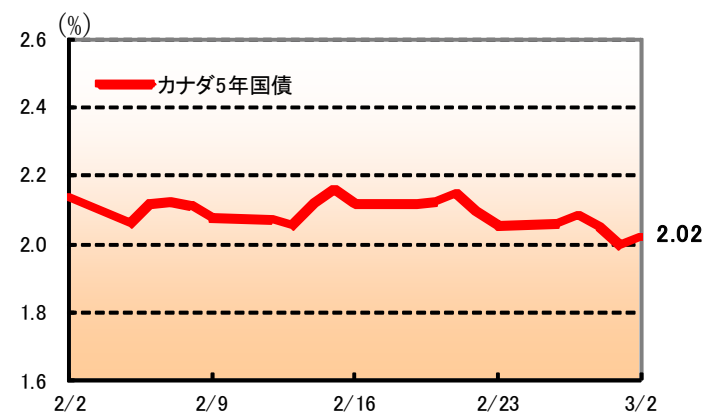
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週、カナダでは雇用統計や政策金利が発表されます。カナダ経済は堅調に推移しているものの、NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉の先行き不透明感などから、市場では政策金利の据え置き予想が優勢となっています。

また、先週発表された米国による新たな関税案について詳細が今週発表される予定です。カナダのフリーランド外相はカナダの鉄鋼とアルミ製品にも規制が課せられた場合、報復措置を講じると表明しており、そのような事態が発生した場合、米国、カナダ双方の経済への悪影響が懸念されるため、カナダの金利低下やカナダ・ドルの下落が意識されやすくなるとみられます。

【カナダ 金利推移】 (2018年2月2日～2018年3月2日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>